



さくら通信



Hoju
Group
宝樹会

No.1

2017

宝樹会によるウィーン発の浄土真宗会報誌

仏教は6世紀に日本に伝わりました。浄土真宗は親鸞聖人(1173-1263年)によって築されました。英語では“Shin-Buddhism”と呼ばれることがよくあります。このShinは浄土真宗の真で、真実を意味します。仏教は、差別や条件無く、全ての人の為であると説いています。

宝樹会の設立に寄せて

岡本英夫

島根県徳泉寺住職

このたび、Hoju Group (宝樹会)が設立され、その機関誌 Sakura Journal (さくら通信)が発刊されること、大変嬉しくありがたいことだと思っています。私はこれまでにウィーンを3度訪れ、こちらの皆様と日本文化や仏教のことについてお話をしてきました。Hoju Group の設立をお祝いして、感想を少し申し上げたいと思います。

会の名称はHoju Groupということですが、いい名前をつけられましたね。

「宝樹」というのは宝の樹ということです。この樹はどこに生えるかといえ、もちろん大地の上です。大地に根を降ろした苗木は、大地が持つ力によってぐんぐんと成長し、根を張り、幹を太らせ、枝を伸ばし、葉を繁らせ、花を咲かせ、実をならせします。もし苗木をコンクリートの上に置けば、根を張ることもできず、このように伸びることもなく、やがて枯れてしまうでしょう。



木のもとのお話(1)

まずは少しお釈迦様というお人について話しましょう。お釈迦様がお生まれになったのはインド、今から2500年ほど前のことです。お釈迦様のお名前は「ゴータマ シッダルタ」、仏陀になられてからは「シャキアムニ ブッダ」といいます。「ブッダ」はサンスクリットで「目覚めた者」という意味です。

これを見ると、大地というのは不思議な力をもっていると言えますね。樹にも不思議な力があるわけです。どんどんと成長する力がある。しかし、いくらその力があっても、どこに植えられるかによって、花を咲かせる場合もあれば、枯れてしまう場合もある。どのようなところに植えられるかによって生きるか死ぬかが決まるわけです。

そのように、樹の成長の最後までを見通してゆつくりと絶え間なくはたらく大地の力。すごいものですね。この大地の力と、これを受けることによって初めて大きく生長する樹。仏教はこの大地と樹の関係を、仏と人間との関係を譬えるときに用いたのです。

大地は仏教でいえば「浄土」。樹が「人間」ですね。浄土というのは、阿弥陀仏の力がはたらく場所を大地として象徴的に表わしているのです。阿弥陀仏の力とは、慈悲と智慧のはたらきです。慈悲とは、どのようなものをも救おうという願いです。智慧とは、それが真実かどうかを見極める力です。一言で表わすときは「大慈悲」と言います。人の迷いのもとを照らし出して、その人を目覚めさせ、救っていかうとする強い力です。

人はこの阿弥陀の慈悲と智慧による大慈悲のはたらきを受けて、初めは苗木のように小さく弱く何もわからず力もなかったのが、次第に成長し、やがて、大きく強く大事なことがよくわかり、自らしっかりと歩み、弱く困った人にはたらきかける力を持つようになります。

大きく強くなることは、大慈悲のはたらきを受けなくてもなることができると思いますが、その大きさ、強さの意味が異なります。普通の場合は、人よりも大きく強く、人に勝つことができるという大きさ強さを意味しているのではないかと思います。

しかし、阿弥陀の浄土を大地として生きると、その大きさは、人を包むことができる大きさであり、強さは人のために役に立つことができる力の強さを意味します。自分だけのために生きるとは小さな生き方から、皆のために生きるとは大きな生き方を生み出すのが浄土という大地の力なのです。同じ大きさや強さなどを持つけれども、その質が異なるのです。

人のために大きく強くなった、ということを表わすために「宝」をつけ、「宝樹」というのです。「宝」は阿弥陀仏を色で表わす場合の金の色。阿弥陀の色です。即ち、阿弥陀のはたらきが至って成就した樹であることを「宝樹」で表わすのです。

Hoju Groupのこれからの活動が、そのような樹をこのウイーンに、ヨーロッパに、1本でも2本でも成長させることができれば、とても有り難いことだと思っています。皆様の応援をよろしくお願いいたします。

